消化器系疾患

分野責任者　入　澤　篤　志
学年　６学年

Ⅰ．前　　文

消化器の講義で取り扱う内容は口腔・食道・胃・小腸・大腸・直腸・肛門の消化器に加えて，肝臓・胆嚢・胆道・膵臓・腹膜の諸臓器の主たる疾患について，その病態・診断・治療の重要事項を中心に講義を行う。国家試験対策を念頭においた内容であり，復習内容の理解を充分に深めてもらいたい。

Ⅱ．学修の到達目標

講義や実習で履修した消化器病学の知識を整理し，成因，病態，検査，治療，予後などを総合的に理解して，医師国家試験に出題される一般問題，臨床問題に正答できるレベルの学力を修得する。

Ⅲ．求められる事前学習（予習：30分）と事後学習（復習：30分）

事前に３年時の臓器別講義の資料に目を通し，知識を整理し，不明の項目は教科書や参考書で確認する。

消化器領域に関する過去の一次卒業試験問題や医師国家試験問題などを解答し，正解できなかった問題について知識を整理する。

Ⅳ．授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者
1	7	7	火	5	肝疾患（外科）	第二外科学 窪田敬一
2		8	水	5	上部消化管の良性疾患（内科）	内科学（消化器） 渡邉菜穂美
3		8	水	6	下部消化管・炎症性腸疾患（内科）	内科学（消化器） 富永圭一
4		8	水	7	胆・膵疾患（外科）	第二外科学 青木琢
5		9	木	1	食道疾患（外科）	第一外科学 中島政信
6		9	木	2	消化器疾患と臨床検査	感染制御・臨床検査医学 福島篤仁
7		9	木	3	ウィルス性肝疾患，肝腫瘍（内科）	内科学（消化器） 飯島誠
8		9	木	4	下部消化管・炎症性腸疾患（外科）	第二外科学 髙木和俊
9		9	木	5	消化器疾患の病理	病理診断学 石田和之
10		9	木	6	肝胆膵の画像診断	放射線医学 楫靖
11		10	金	1	胃・十二指腸疾患（外科）	第一外科学 小嶋一幸
12		10	金	2	上部消化管の悪性疾患（内科）	内科学（消化器） 郷田憲一
13		10	金	3	自己免疫性・薬剤性・代謝性肝疾患（内科）	埼玉・消化器内科 玉野正也
14		10	金	4	胆道疾患（内科）	内科学（消化器） 入澤篤志
15		10	金	5	膵疾患（内科）	内科学（消化器） 入澤篤志

六学年

Ⅴ．評価基準

出席についてはチェックを行い，出席率は受験資格の要件とする。評価については，各担当領域の教員の出題による試験により行うが，最終的評価は分野責任者が行う。

Ⅵ．コアカリ記号・番号

Ａ－２－１)，Ａ－２－２)，Ｃ－２－２)，Ｃ－４，Ｄ－７，Ｅ－２，Ｅ－３，Ｅ－４，Ｅ－５，
Ｆ－１－１）～７)，10）～13)，16)，18)，19)，20）～27)
Ｆ－２－１）～９)，11）～13)，16)

Ⅶ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

Ⅷ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

フィードバックとして試験問題の解答に関する解説を行います。

質問事項に対しては随時対応します。